

# かわスポ

部活動係新聞

令和6年7月19日(金)

# 世界で輝け!!

## 3年ぶり2度目の インターハイ出場決定! 女子サッカー部



東海総体を勝ち抜くことだけを目標にこの2週間、本番を想定して活動してきた。練習試合を東海総体と同じ時間に行ったり、疲労を残さないようなケアをしたり、何が起これども対応できるように準備してきた。1試合目の帝京大学附属高見高等学校には序盤でPKを決め、無事初戦勝利した。前日の勝利で油断をし、続く2日目の三重高校との一戦では、一瞬の隙を突かれ相手に先制点を決められた。苦しい戦いが続いたが、3年生がこそという場面で点を決め、全国出場の切符を手に入れた。東海大会3戦目、藤枝順心高校との戦いは0対3ではあったが、藤枝順心相手に創部初のロースコアで抑えることができた。私たち女子サッカー部は県大会から試合の中で成長してきた。メンバーに選ばれた選手もそうでない選手も、自分自身のやるべきことをきちんとこなすチームである。ポランチとして献身的なプレーが持ち味の加藤芽衣、中辻祐希、東海総体でも点を決めた濱田優音、美濃部瀬音。体を張ってプレーできる服部寿音。チームのピンチを救った松倉花月。守陣を統率する武田悠愛。キャプテンとして声とプレーでチームを鼓舞する今井諒子。3年生が中心となり、最後まで諦めることなく戦いに挑めるチームである。豊川高校女子サッカー部としては3年ぶり2度目の全国高校総体出場となる。今でも寮に「豊川高校0対8帝京長岡」が掲げられている。これは、初めて全国高校総体に出場した初戦の結果である。先輩方が越えられなかった高い壁を私たちが乗り越えたい。「全国一勝」という目標を実現させるために東海総体で出た課題に向き合い、チーム一丸となって、私たちのサッカーで全国を魅了します。一戦一戦全力で挑み、3年越しのリベンジを果たします。みなさんのご声援、よろしくお願いたします。

## 総文祭

写真部



第48回全国高等学校総文祭(岐阜大会)に出品が決まった。作品「麒麟が来る」は鈴木君が第47回鹿児島大会で訪問した動物園で撮影したものであり、愛知県大会320点のうち上位10点に選ばれて決定した。鈴木君はこれで2年連続、スマートフォンでの撮影による全国大会出場となった。

# 創部初 全国総体出場決定

女子ソフト テニス部

渡邊・塩沢ペアは県新人体育大会で第5位入賞をしていたので相手からもマークされているペアであった。東三河予選ではほぼ危なげなく勝ち上がり、優勝して県総体出場を決めた。第5シードになったため2回戦からの出場となった。2回戦の相手は同地区の豊橋東になった。絶対に勝たなければならぬというプレッシャーからなかなか1対3の絶対絶命のピンチにまで陥った。しかし、不思議な焦りは感じずおらず、そこからネットプレーヤーの塩沢が連続ポイントを取り、逆転勝ちをした。3回戦では豊田大谷のレギュラーに勝利。そしてインターハイ出場となる4回戦では菊華に勝利し、創部初の全国総体出場を決めた。加藤・星野ペアは県新人でベスト16に入っていた。そして、東三河予選では同校対決にて敗れたものの第2位で県総体出場となつた。そのため2回戦からの出場となった。2回戦から加藤の鋭いシュートボールと星野のボレーとスマッシュが炸裂した。2回戦、3回戦と圧勝であった。4回戦の相手はなかなか決まらず、待機を決めた間に渡邊・塩沢ペアのインターハイ出場が決まった。インターハイ出場決定となる4回戦ではチームが丸丸と応援を呼んで、岡崎城西のペアに勝利し、インターハイ出場を決めた。テニスコート改修に当たり、男女合同の練習形態となった。男女がお互いに協力して良い所を吸収して練習に励んでいる。その成果が女子ソフトテニス部創部初の全国総体出場につながったと考えている。選手一人一人が大会への意気込みを語っていた。3回戦突破を目標とする。どんな結果になっても後悔のないように一球一球大切に相手に向かっていきたい。また、先輩とのラストゲームに頑張りたい。また、先輩と楽しむことも忘れずに頑張りたい。(渡邊) 初めてのインターハイで豊川高校の名前を残せるよう全力で頑張りたい。(塩沢) 初めての全国大会という舞台で緊張もあるけれど、鋭いストロークを武器にいつも通りのプレーをして、まずは1回戦突破して来年に繋がるように1試合1試合を楽しみたい。(加藤) ベスト8を目指して2人で最後まで笑顔で戦い、今までの成果を出せるように頑張りたい。(星野)

## 全国総体出場

## 豊川から全国へ

陸上部

男子4×100メートルリレーでは40.35秒で優勝。これは豊川高校陸上部の歴代最速記録を更新し、現在全国ランキング7位につけています。女子100メートルハードルに出場する2年三好澄果は決勝で自己ベストを更新、さらに全国ランキング5位の選手をくぐり、優勝を飾った。男子200メートルには2年内藤翔真はリレー優勝した勢いそのまま6位に入賞し、東海地区で唯一・2年生でインターハイの200メートルに出場します。

# JAPAN CUP 2024 フライデーインターナショナル進出 チャリデーディング部

6月30日(日) 第29回中部チャリデーディング選手権大会、高等学校の部、自由演技競技 DIVISION 1 (デビジョンワン) において、総合7位に入賞しフライデーインターナショナル出場権を獲得した。全国大会は、8月29日(木) 5月1日(日) 国立代々木競技場第一体育館で行われる。順位は、競技時間2分30秒の「自由演技競技」と空手の形のような「規定」の合計得点で全国大会が決定する。昨年は「規定」の点数が低く悔しい思いをしたため、今年は毎日動画を撮り、形が合うまで繰り返し練習をした結果87点を取ることができ、フライデーインターナショナル出場権獲得することができた。チームのモットーは「素直に謙虚に元氣よく」。チャリは信頼関係がないとできないスポーツだからこそ、日々の練習では「笑顔」「笑顔」「笑顔」を大切にしたい。そのために学年関係なくコメントを出し合い声を掛けをした。チャリデーディングの意味は「チャリ」は勇気、全員が主役のチームだ。チャリデーディングは「一見華やかに見えるが、その裏では地道な努力が必要である。昨年の10月から新体制になり、基礎練習を大切にできた。基礎ができていないとやるといけない。基礎は地道だが必ず成果が出る」と信じて練習してきました。2月に行われた愛知県大会ではやりたかった技ができなかった。その悔しい思いを今回の中部大会で果たせるように競技チャリデーディングを経験してきた皆さんの1年生をむかえ切磋琢磨してきた。体力作りのために10時間のランニング、ジャンプ力向上のため5分間の縄跳びや50回連続の二重跳び、筋トレなどを続けてきた。チャリ部からのコメントで「実際の大会の12メートル×12メートルの配置で練習できるように体育館開部の部活動の皆さんに協力していただき第2体育館で練習することができました。前日の練習で納得の行く演技ができ、自信を持って大会当日を迎えることができました」と感謝の気持ちを話してくれた。大会は2種目となる。規定という全チーム同じ決められた型を自分たちの声で動く。そして自由演技はスタンツという組体操みたいなものを中心にジャンプやダンス、アクロバットで構成されている。その2つの合計で点数が決まる。私たちは回転や派手な技をして点数をとるのでなく、規定で点数をとることを目標にしていた。その結果、目標であった「JAPAN CUP」フライデー部門での出場を決めることが出来た。「JAPAN CUP」では私たちの目標にしているクリアで美しい演技ができるようにやりきっていきます」とキャプテンの岡田楓那は話していた。

## めざませ 部門優勝・総合優勝 ダンス部

ダンス部の大会はメンバーの選抜から始まる。部員の中での競争を勝ち抜いたもののみが演技ができる。4月の選抜テストで、男女混合部門と女子部門の両方に出場することを決めた。経験者を集めた3年生中心の男女混合11人。高校からダンスを始めた部員も入れた女子部門21人。予選大会1か月間、著作権の関係で男女混合部門の出場を断念。女子部門にすべてをかけた。経験者の3年生を筆頭に、初心者メンバーや下級生を引っ張り上げ、全国大会で通用する作品を創るべく厳しく練習に臨んでいた。その甲斐あり、東海大会では部門優勝を勝ち取り全国大会出場を決めることができた。チーム名「SHINE(シャイング)」。3年生11名、2年生9名、1年生1名の合計21名のチーム。このうち8人が初めて大会に出場した。ダンスドリルはバスケットコート1面だけで披露する大会。舞台のように隠れるところがなく、メンバー全員の技術が揃っていないといけない。ダンスの振りだけでなく配置や構成もコートの広さを生かして演舞した。メンバーの全員が目標は「全国大会での部門優勝並びに総合優勝」。昨年、夏の全国大会は、3位入賞に入ることができなかった。今年こそ1位を目指して細部にまでこだわって練習を重ねる。部門優勝チームが行う再演技。東京体育館のライティングの中で、最後に踊ることを目標に優勝を目指す。